

心音こころね

季刊誌「こころね」 第6号

KOKORONE

大分循環器病院広報誌

[こころね]



2013.
April
Vol. 6



6年目の春を迎えるに当たり -雑感あれこれ-

大分循環器病院院長

あき みつ ただ ふみ
秋満 忠郁

当院が「大分循環器病院」となり、早いもので6年目の春を迎えようとしています。当院に賜りました数々のご指導とご厚情に対しまして、職員一同心より御礼申し上げます。また昨年8月には、私が会長として第19回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会を別府市で開催させて頂きました。当院のような小さな施設が主催した例は過去になく不安が強かったのですが、多数の医師・コメディカルの方に参加して頂き盛会に終わり安堵致しました。



さて、一昨年3月11日の東日本大震災から2年が経過しましたが、被災地における復旧・復興は遅々として進んでおらず、また原発の問題も未だ収束する過程が見えません。また膨大な財政赤字、長引く経済不況、尖閣・竹島・北方領土等の領土問題など、まさに内憂外患であり本当に“どうした、日本”と言いたくなるような状況です。子を持つ親の世代として、国民の一人としてもっと政治に関心を持たなければと強く思います。

医療界においては、昨年10月に京都大学の山中伸弥教授が再生医療に繋がるiPS細胞を樹立され、ノーベル医学生理学賞を受賞されたことが最大の明るいニュースでした。私が生きている間に臨床応用までなされるか難しいかもしれません、再生医療や創薬等の臨床応用ための研究競争が世界中で激化しており、遠くない将来に夢の医療の実現が可能になると思います。また私の米国留学の経験からも思うのですが、日本の研究施設や研究環境は米国等に比べると極めて不十分であり、この分野において日本が先進的役割を獲得するために、そしてそれが将来の日本の基幹産業となる可能性もあり、国をあげて応援すべきと考えます。



一方、地域の医療現場においては医師・看護師不足、医師の地域及び診療科偏在の問題、医療者の過重労働などの“医療崩壊”は全く改善されないまま現在に至っています。また団塊の世代が75歳以上となることにより、医療費などの社会保障費の急増が懸念される2025年問題ももうすぐやってきます。まさに難題が山積み状態であり一民間病院がどうこう出来る問題ではありませんが、大分県の医療は我々大分の医療人が守るしかなく当院で出来ることはできる範囲でやろうという気持ちで、私を含めてほぼ医師の全員に他の医療機関に応援に行ってもらっています。その分当院を受診される皆様にはご迷惑をおかけすることがあるかもしれません、ご理解を頂ければと存じます。



ところで近年一番気になるのは一般的風潮として医師と患者さんの関係が以前より悪くなっていることです。私が医師になった20数年前は医師や医療は現在ほど悪者扱いでなかったような気がします。もちろんその原因として我々医療者側にも反省すべきところは多々あるとは思いますが、「医療や医師と関わるな(ひどいときには関わると殺される)」的な医療を否定するような本が数多く出版されたり、疑問符のつく高齢者関係の医療訴訟が多いこと(例えば90代の方の進行癌に対して積極的な治療が行われ



なかったことに対する訴訟など)など、それはちょっと違うのではと違和感を覚えていました。そんな風に感じている折、村田幸生先生が書かれた“「医療否定」は患者にとって幸せか”(祥伝社新書)という本を読む機会があり、まさに日頃自分が漠然と思っていることを丁寧に書いてくださいました。興味

のある方は是非御一読頂ければと思います。私自身は医師という職業が好きですし、誇りも持っています。世界中の他の国と比較して、日本は国民皆保険制度のおかげで質の高い医療を誰でも受けることができるとしても幸せな国だとも思っています。その日本の素晴らしい医療制度を守り育てていくためには、医療者側と医療を受ける側とが相互に努力と責任を果たしていくことが必要となってくるのではないかでしょうか。そして今後医療が再生するために両者の関係が良好となることを切に願います。(こんなことを書くとご批判も多数あると思いますが、あくまでも私個人の意見ですのでご了解頂ければと存じます。)



最後に、この5年間地域の皆様に信頼される病院となるように努力はしてまいりましたが、まだまだ不十分であると思います。今後も皆様のご期待に少しでも応えられるように全職員が一層の努力をしていく所存ですので、何卒よろしくご指導のほどお願ひ申し上げます。



生理検査室紹介

生理検査室では主に心臓超音波検査や運動負荷検査などの心血管系の検査を行っています。現在3名の臨床検査技師が従事しており、うち1名は日本超音波医学会の認定資格である超音波検査士の資格を有し、他の2名も資格取得のため現在勉強中です。

このたび平成24年12月に超音波診断装置を新規に購入しましたので、その紹介と心臓超音波検査についてお話をしたいと思います。

心臓超音波検査は一般的に心エコーとよばれ、非侵襲的な検査で、心臓の大きさや構造、動きなどを観察し、急性期から慢性期までの幅広い心疾患で病態の解明や治療法の選択に寄与します。

近年の超音波診断装置は日進月歩で進化を遂げ、心エコーの分野でも心臓を2D(平面)から3D(立体)で評価する時代になってきました。

今回当院で購入した装置は、フィリップス社製「iE33xMATRIX」という装置で、心臓をリアルタイムに3Dで観察することができます。心臓は常に動いていますので、この動いている心臓をリアルタイムにさらに3Dで観察できるということは実はものすごいことなのです。また、検査の画像は統合的PACS「Xcelera」で管理されており、検査後定量解析ソフトウェア「QLAB」で様々な解析を行うことで心臓のより正確な形態評価と重症度評価が可能になると考えています。

また、「iE33xMATRIX」ではリアルタイム3D経食道エコー(Live3D TEE)も可能で、食道から心臓を観察することで、より鮮明で解像度の高い画像を得ることができます。

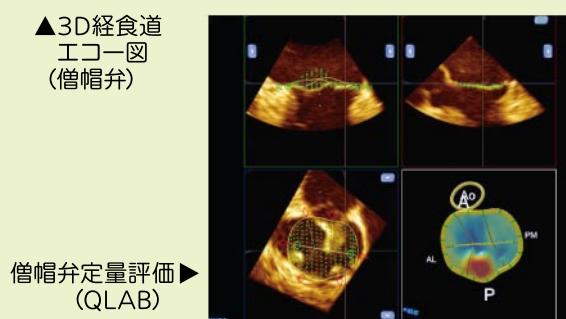
これらの装置の導入により、今まで以上に多くの情報を正確に臨床医に提供することで、心疾患の診療に役立てていきたいと思っています。



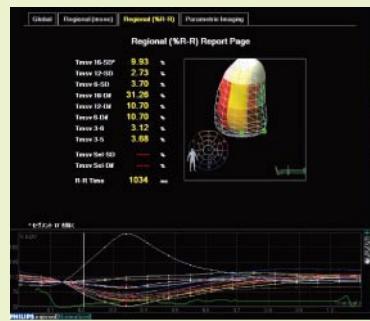
購入装置
フィリップス社製iE33 MATRIX



▲3D経食道
エコー図
(僧帽弁)



僧帽弁定量評価▶
(QLAB)



◀左室定量評価
(QLAB)

♪季節の食材コラム♪

「ワカメ」

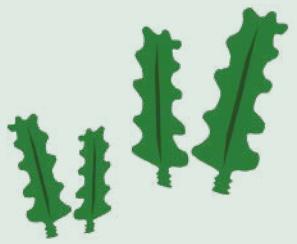
もりさこ ひろみ
管理栄養士 森迫 浩美

ワカメは日本人にとって馴染み深い海藻類の一つで「古事記」や「万葉集」にもその名が見られます。味噌汁の具、酢の物、炒め物、サラダなど幅広く料理され、一年中私たちの食卓を飾ってくれますが、ワカメの旬は春。特に生ワカメは日持ちしないためあまり出回りませんが、若いほど味が良く、早春の味です。

ワカメにはヨウ素をはじめ、カルシウム、カリウム、亜鉛などのミネラル成分が豊富に含まれています。また、ワカメ特有のぬめりは「アルギン酸」とよばれる水溶性食物繊維の一つで、余分な塩分やコレステロールを体外に排出する作用があり、高血圧や動脈硬化の予防に効果があると言われています。

年中流通している主なワカメは塩蔵ワカメと乾燥ワカメの二種類です。塩蔵ワカメは緑色が濃く、肉厚なものを、乾燥ワカメは黒褐色で厚みがあるものを選ぶとよいでしょう。

低カロリーで多くの食物繊維やミネラルを含むワカメを毎日の食卓に是非取り入れてみてください。



四つ葉マークにお気づきですか？

以前のように看護師がナースキャップをつけなくなってから、どの看護師が師長なのか副師長なのか分からぬ…といったお声を耳にし、役職に応じて白衣の襟元に四つ葉マークを刺繡しています。



四つ葉→看護部長



三つ葉→師長



二つ葉→副師長



一つ葉→主任

お気づきになった方がいらっしゃいますでしょうか…??

編 集 後 記

ちょっとずつ春の気配がしてきた今日この頃です。それはそうと、皆さん院内のいろんな場所に掲示してある、職員紹介は御覧になっていただけでしょうか？職員の意外な一面を発見できるかもしれませんよ。なかなか皆さんと接する機会が少ない職員もいると思いますが、こうしたことであととの距離が少しでも縮まればうれしいと思います。

医療法人 愛寿会
大分循環器病院
Oita Cardiovascular Hospital
〒870-0036 大分市寿町27番1
TEL 097-532-1111(代表)
ホームページ:<http://www.oita-junkanki.jp/>

